

かわぐちナーシングホーム 家族新聞



2024年 新春



謹んで新年のお慶びを申し上げます



施設長 池辺 健二

かわぐちナーシングホームをご利用の皆様、ご家族の方々、職員の皆さん、令和6年、新年明けましておめでとうございます。年が改まるのは大きな区切りではありますが、昨年よりたて続きに衝撃的な事柄が発生し、辰年の始まりは区切を感じさせませんでした。介護、医療の分野では、すでに突入した超高齢化社会への対応が最大の関心事です。認知症治療薬として抗体製剤のレカネマブが保険適応になりましたが、高価薬であるにも関わらず、一般には非常に分かりにくい導入に思われます。軽度認知機能低下（MCI）があり、ベータアミロイドの脳内蓄積のある人が使用の対象になりますが、軽度認知機能低下の診断や、治療時の安全性、経過の評価など高い専門性が要求され、使用できる医療施設は限定的との事です。島津製作所の社員でノーベル賞を受賞した田中耕一さんの、ノーベル賞授賞理由は蛋白分子をイオン化しクロマトグラフィーで分析可能にした技術でした。現在田中耕一さんは血液中のアルツハイマー病に関係する物質の検査技術を開発しています。製薬会社エーザイの宣伝文句ばかりが伝えられ、田中耕一さんの名前が全く出てこないのは不思議です。またレカネマブの前に開発され、米国で認可されている抗体製剤アデュカヌマブが話題にならないのも不思議です。人工知能（AI）の話題が盛んですが、認知の構造について考える必要を感じます。認知、認識、真実、事実、真理、フェイ

ク（偽）、正確な知識、不正確な知識、虚偽、錯覚、幻覚、幻視、既視感などなど、人それぞれ、それぞれのレベルで認知が一致することの方が不思議でしょう。認知機能低下を病気（症）と呼びますが、平均的でなく、ある部分の人たちに不都合な時、それをみんな病気と呼ぶのはどうかと思います。ある部分の神経細胞が死んで認知症は起きてきますが、細胞の死に方にも種類が知られています。細胞死の多くはアポトーシスと呼ばれる、細胞に備わったプログラムに沿って死ぬ死に方です。古い細胞が新しい細胞に置き替えられるとき、古い細胞は秩序正しく死に、死骸は周辺に危害が及ばないように処理され、その成分の多くは再利用に回されます。人が年老いていく時、細胞死の量や、順番や、速度はバラバラでも、細胞は死んでいきます。徐々に進行する認知機能低下はバランスよい個体の死に方の、一般的なあり方と言えなくもないと感じます。近年、認知症と診断された本人が自分に映る外界を書いた本が出版され、当事者研究と呼ばれる障害や病気の本人が研究に参加する例が増えてきています。人工知能（AI）自身が認知機能障害を起こした時、どのようなふるまいをするか関心を持ちます。生成 AI が認知症のバーチャル世界を描き出したらどのような世界を見せてくるか、正月らしい想像をして見ました。昨今人工知能の危険性をコントロールする国際的な法規制を創る必要性が叫ばれています。しかし人工知能はあらゆる人々の危惧を宥和的に取り込んで、人工知能の目的に沿った形で、合理的に人々の危惧を取り除き、満足を与える解決策をあっという間に作成できると思います。ルーディ・ラッカー著「無限と心」という本を参考にしました。ともあれ皆様にとって本年が良い年となりますよう祈念致します。



看護部長 佐藤 朋子

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。
皆様におかれましては健やかな新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。しかしながら2024年元旦に発生した能登半島地震、それに伴う日航機事故など悲しい出来事で今年も始まりました。関係者の皆様には心よりお見舞申し上げます。
昨年5月にコロナも5類となり少しずつ以前の生活へ戻り、秋には4年ぶりの納涼祭も開催出来ました。暮れにはクリスマス会、もちつき大会、新年には手作りナーシング神社を設置し初詣も行いう事が出来ました。おしる

こ、甘酒を飲みながらとっても良い笑顔を見せていただきました。
これからも御利用者様が笑顔をたやさず御家族様も安心して任せられる施設を目指し、実現していきます。本年も何卒よろしくお願いします。



介護課 課長 倉持 正子

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

昨年末はコロナ感染症が五類になり、祭事や対面での面会が条件付きとは言え行う事が出来るようになりました。新年には初日の出を見、ナーシング神社に参拝等のイベントを行い、利用者様から「ありがとう」「よかった」との声も聞かれ嬉しく思いました。また、ご家族様と面会された方は笑顔でいろいろ話してくださいました。

これからもどんな事をすれば満足し安心した生活を送って頂くことが出来るか考え、施設内での活動を高めていきたいと思っています。

介護者もあわただしい一日を送っており、何かご不便をおかけすることもあるかもしれませんが遠慮なくスタッフに声をお掛けして頂きますと幸いです。

新年早々に能登半島の地震に心を痛めつつ防災に対する認識を深める事が大事だと実感し、より安全・安心に利用者様が生活できることを目標とし、新年のあいさつとさせていただきます。



リハビリ課 課長 脇本 忠春

新年あけましておめでとうございます。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類へ移行した事を受け、世の中は大きく WITH コロナへとシフトしました。最近、多くの事柄がコロナ前の状態に戻りつつあり、コロナ関連の話題もほとんど見かけなくなりました。

ただ、高齢者施設である当施設では、コロナは依然として重症化リスクが高い警戒すべきウィルスであることに変わりなく、世の情勢通り、単純に WITH コロナへとはいかないのが現状です。

その為、当施設としては、これまで実施してきた感染予防策を徹底したうえで、できるだけコロナ前の状態に近づけていくスタートの1年にできればと考えます。

リハビリに関わる場所では、各種クラブやアクティビティ活動の再開、屋外企画の積極的な導入(デイ)、地域のケアマネジャーの方を呼んでの勉強会の再開、地域ボランティアさんの受け入れなどが考えられます。その他、現場レベルでも季節行事や各種企画の再開なども検討しています。利用者様、ご家族、地域の方、職員一同が力を合わせて、少しずつ、コロナ前あるいはそれ以上のナーシングホームを作っていければと思います。本年もよろしくお願いいたします。

事務課 課長 星野 陽子

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年末からコロナやインフルエンザの感染が猛威を振るう中、ご利用者様ご家族様のご理解とご協力によって、当施設ではクラスターを出すことなく新しい年を迎えることが出来ました。昨年より限られた時間ではございますが、面会を再開させていただき、面会時の皆様の笑顔に、嬉しく涙がこぼれる思いでした。イベントやレクリエーション、クラブ活動も少しずつ再開し、秋祭りには100名を超えるご家族様にお越しいただき、4年ぶりの大成功となりました。本年も、職員一同で、創意工夫をし、様々な企画を考案中です。ご期待ください。

「一陽来復」という四字熟語があります。冬から春になる、一度去ったものが再びやってくる、悪い流れが去り再びよい方向に向かうという意味を持ちます。本年が皆様にとって「一陽来復」幸運の年となりますよう心よりお祈り申し上げます。本年もご支援ご協力よろしくお願い申し上げます。

◇ 編集後記 ◇

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

新年より災害・事故等、様々な事が起こっていますが、医療介護業界も今年は報酬改定が行われます。高齢化が進む中、今後の医療介護業界がどのように変化していくのか。皆さまが安心・安全に生活できることを願いつつ、今年も精進していきたいと思っています。

